

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	居宅介護支援事業費（角館）				
担 当 課 係 名	角館在宅介護支援センター 課		係	作成者	木元 久美子
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	すべての生命を慈しむ健康福祉のまち			総合計画の ページ
	基本計画	高齢者福祉と介護保険事業の充実			
	主要施策	介護サービスの確保			53
予 算 費 目	一般 会計	3 款 民生費	1 項 社会福祉費	5 目 在宅介護支援センター費	
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	介護保険法				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	市内の要介護者となった高齢者。
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	高齢者が有する能力に応じ可能な限り、その居宅において自立した日常生活を営むことができるように支援する。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	相談業務、ケアマネジメント、認定調査。

【事務事業の推移】

（単位：千円）

	項 目		単位	18年度実績	19年度実績	年度実績
効果	活動指標	ケアプラン作成件数	件	1,506	1,266	
		介護認定調査件数	件	328	329	
	成果指標	要介護者	%	92	91	
		要支援者	%	8	9	
投下コスト	項 目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費（人件費を除く）(A)			786	1,627	
	財源内訳	国 庫 支 出 金				
		県 支 出 金				
		地 方 債				
		そ の 他				
		一 般 財 源		786	1,627	
	人 件 費 (B)		—	25,286	21,524	
		職 員 数	—	4.0	4.0	
		職 員 平 均 人 件 費	—	7,853	8,071	
	(A) + (B) 投下コスト		—	26,072	23,151	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト (円)		—	17,312	18,287	
			—	79,488	70,368	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	818	737	

【事務事業の今までの成果】

要介護状態となった高齢者に適切な介護保険サービスを提供することにより在宅生活を継続し家族と共に明るく健やかな生活を営むことができるよう支援している

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	独居、高齢者世帯、虐待、生活困窮者などの困難ケースへの取り組みが増えている。
意	高齢化率は全国でも上位にあり、今後も上昇する見込み。要介護者、その家族が安心して暮らせるよう、医療保険福祉ネットワークの整備が必要。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
A	A	現状のまま継続（実施）	市民のニーズに合わせ、円滑に機能している。 必要性が認められる。
	B	見直しの上で継続（実施）	
	C	大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

民間事業所で対応しきれないような困難事例に対し、行政の関連機関の協力を得ながら対応する必要がある。
包括支援センター、福祉事務所、医療、保健など各機関の連携を図っていく。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	ケアプラン作成など、民間事業所のサービス供給が不十分なため、引き続き市民のニーズに応え事業を実施していくことが必要である。

一次評価診断図

